

とっとり SDGs 企業認証 認証事業者申請内容



事業者名

株式会社赤碕オート

所在地

鳥取県東伯郡琴浦町赤碕 1114-1

代表者

代表取締役 井木 桂太

業種

サービス業

N 1 =

①自動車の販売

新車・中古車販売事業(国産全車種・全銘柄取り扱い)

電動福祉車両・スモールモビリティの販売

②自動車のリース

新車・中古車リース事業、

③自動車のレンタル業

レンタカーの貸出

4その他販売関連業

自動車査定による自動車買取業務、車両アクセサリーの販売、

⑤自動車整備

自動車の車検、点検、整備業務、福祉車両の架装等

自動車のアフターメンテナンス事業

⑥保険各種取扱い

損害保険取扱業務、生命保険取扱業務、

⑦自動車事故引揚業務

故障・事故車両の引揚、有償運送等

事業概要

<2030年に目指す姿>

赤碕オート2030年 SDGs ビジョン「ヨコナガカーライフ」 自動車のライフタイムコスト・サイクル「縦長型」から「横長型」への変革 〈社会〉

- ・移動の自由を実現させて安全・安心・快適な地域社会づくり
- ・自動車死亡事故ゼロ社会の実現を目指す
- 〈経済〉
- ・燃料代(移動エネルギー)の負担軽減
- ・自動車の適切なメンテナンスで車の資産価値を守る
- ・車をリユースして再活用、自動車のライフサイクル長寿命化を目指す 〈環境〉
- ・販売製品の事故や故障を防ぎ、長寿命化を実現させることによる廃棄物削減
- ・C02の排出量の削減

【補足説明】

問題点と課題

これまで:高負担となる燃料代、メンテナンス不足による余分な修理費用支払い、事故や故障による突然の代替費用発生と自動車保険使用による保険料負担の増加、事故修復歴による査定価値の減少を伴いながら大量の自動車廃棄が発生している。これは、地域社会の「損失」であると考えている。

<自動車ライフタイムコスト・サイクルにおける「縦長型」とは>

- ・燃費性能など移動にエネルギー効率性の低い自動車を使用している
- ・メンテナンス不足で余分な故障修理が発生。良好な状態を維持できず使用年数が短命となってしまう自動車
- ・事故で補修のための費用、車両価値の減少が発生する自動車

縦長型は自動車を維持する費用と時間負担が大きく、価値の減少が進むので廃棄までのサイクルが短い

実際にあった事例:お客様

- 大きな自動車で燃費が悪いので燃料代の負担が大きい
- ・エンジンオイル交換をしなかったのでエンジンが壊れて高額な修理が必要となった
- ・事故で保険を使って修理、保険料が上がるだけでなく乗り換えの時の査定価格が減額された。

<自動車ライフタイムコスト・サイクルにおける「横長型」とは>

- ・移動エネルギー効率性の高い自動車を使用している
- ・適切なメンテナンスで故障を予防しながら良好な状態を維持できる自動車は長期使用が出来る。
- ・事故なく、車両価値を損なうリスクを予防する先進安全機能付き自動車

横長型は突然のトラブル費用発生とそれに掛かる時間負担が少なく、価値の減少が進みにくいので廃棄ま でのサイクルが長い

≪ヨコナガカーライフというご提案≫

環境への大きな負担を減らし、自動車を長く大切に使うヨコナガカーライフ3つの概念

- ①パッシブセーフティ …車の基盤をEV、PHEV、HV などへの更新を促して、CO2 排出量の削減。
- ②アクティブセーフティ…自動ブレーキ、誤発進抑制装置、ドライブレコーダー、車体防錆施工、メンテナンスパック等の付保で自動車を安全・安心に使用できることで不必要な故障や事故を防ぎ、その価値を守る。
- ③創造型エネルギー …エコドライブによる省力エネルギー化と良質な車の再利用で生まれる快適で便利な価値創造。

世間のメリット→C02 排出削減、廃棄物の削減、

買い手のメリット→故障、事故の予防よる良好状態を維持して長期的な視点での価値の保存売り手のメリット→豊かなカーライフの提供を通じながら顧客と長期的な信頼関係の構築

<目指す姿の実現に向けた**重点的な取組**>

社会1:労働災害の防止

定期点検の実施、故障トラブルなどへの迅速な対応、エコドライブによる交通安全意識の啓発

社会8:社会配慮型商品・サービスの提供

電動車の普及、先進安全車の普及、定期点検の実施、誰一人取り残さない移動の自由の確保

社会10:地域社会への貢献

先進安全車の普及、定期点検の実施、適切な保険の提供、誰一人取り残さない移動の自由の確保

経済1:事業継続計画(BCP)の策定

適切な保険の提供、故障トラブルなどへの迅速な対応

経済4:情報公開

定期点検の実施

経済6:コロナなどの市場変化を見据えた対応

先進安全車の普及、定期点検の実施、適切な保険の提供、誰一人取り残さない移動の自由の確保

経済了:自社以外の経営資源活用

適切な保険の提供、故障トラブルなどへの迅速な対応

経済8:デジタル化による生産性向上

定期点検の実施、適切な保険の提供、故障トラブルなどへの迅速な対応

環境1:【気候変動①】自然環境の変化が経営にもたらす影響

先進安全車の普及

環境2:【気候変動②】社会・制度の変化が経営にもたらす影響

電動車の普及、先進安全車の普及

環境4:<省エネ>燃料消費量の削減

電動車の普及、定期点検の実施、エコドライブによる交通安全意識の啓発

環境7:廃棄物の削減

定期点検の実施

環境9:環境配慮型商品・サービスの提供

電動車の普及、先進安全車の普及、誰一人取り残さない移動の自由の確保

環境10:環境面での社会貢献

適切な保険の提供

<重点的な取組推進時のインパクト(正の影響、負の影響)の分析・考察>

・電動車の普及

既存のガソリンエンジン車の販売から電動車への販売台数が増えるとガソリン使用料節減に貢献できる。電動車は整備交換部品や修理内容の変化も生み出すので、従来の自動車整備技術だけではないコンピューター診断等のシステムを活用した新たな整備へとつながる精度の高い技術や設備、セキュリティが必要となる。

・ 先進安全車の普及

自動ブレーキ等の点検にはシステムにエラーが出ていないか確認する為にスキャンツールが必須 となる。事故や損傷などで部品交換する場合は電子制御装置整備・自動運行装置整備(特定整 備)などの認証手続きが必要となる。

・定期点検の実施

点検実施率を上げることで故障予防へのアドバイスが出来る。適切な部品交換が出来れば路上トラブルなどの予防に繋がり、ひいては事故件数の減少にも貢献できる。

・適切な保険の提供

前年と同じ内容で保険更新を続けている場合、昔からの補償内容では万が一の保険使用の際に適切な保険金が受け取れないといった懸念がある。より詳細なリスク説明を行う必要がある。災害、事故等想定されるリスクを情報提供してアドバイスすることで適切な保険を契約していただくことが二重ローンや借入金の増大で生活苦に陥るなどの貧困問題への解決となる。

・故障トラブルなどへの迅速な対応

事故や故障への要請では1秒でも早く駆けつけて迅速、正確、丁寧に車両の引き上げを行うことが出来れば、渋滞の予防や追突事故など二次災害予防に繋がり道路上の安全を守ることができる。

・エコドライブによる交通安全意識の啓発

エコドライブへの取組を実行できる企業やドライバーが増えることで自動車の安全運転への意識づけにもつながる、エコドライブは経済的にも効果があり燃料費高騰など燃料代負担増加の問題解決にもつながる。また、エコドライブを通じて地球環境問題を知るきっかけとなる。

・誰一人取り残さない移動の自由の確保

高齢者の免許証返納が進まない背景には移動手段が限られていることが問題として挙げられている。地域交通の実証実験を後押しできるカーシェアリング事業をリースと整備、保険が一体となったソリューションとして提供することで課題解決を目指す個人や団体、法人を後押しすることができる。

| 取組 | 正の影響 | 負の影響 主なキーワード |
|--------------------|-----------------|----------------|
| 電動車の普及 | 低炭素への移行が進む | 技術高度化、整備部品減少 |
| 先進安全車の普及 | 事故の減少、事故死者数減少 | 整備設備、システム料の高額化 |
| 定期点検の実施 | 故障予防 | 金額面での顧客負担増 |
| 適切な保険の提供 | 貧困予防、災害や事故支援 | 金額面での顧客負担増 |
| 故障トラブルなどの迅速な対応 | 二次災害予防、安心の提供 | 情報取り扱い量の増加 |
| エコドライブによる交通安全意識の啓発 | 燃料使用料の節減、事故予防 | 生産性の低下 |
| 移動の自由の確保 | 地域間移動イノベーションの推進 | 自動車販売台数の減少 |

社会(1/2): 株式会社赤碕オート

| 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
|---------------|---|--|
| 労働災害の防止 | 【主な取組】 ・毎年4月に自動車整備振興会が推奨している「自主点検」を実施。設備点検や組織体制の確認、確実な運用確認を行いながら労働災害防止の取り組みを実施しながら継続的な点検を実行することで、継続的に働き手の安全確保と法令順守・コンプライアンス意識の醸成を生み出し、それを皆で共有することで、お客様や社会に安全・安心をご提供している。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 事故予防のための工夫化を毎月の会議 の中から話し合う。 令和5年 ヒヤリハットの年間発生件数を把握。他社 との連携から学び、更なる事故予防のための工夫を 仕組み化する。 令和6年 労働災害0、ヒヤリハット発生数の削減前 年比50%減を目標 【目標達成に向けた取組】 ・同業他社との外部連携 ・ヒヤリハット発生件数の可視化と削減への工夫 ・年間スケジュールの適切な履行 |
| ハラスメント の防止 | 【主な取組】 就業規則にセクシャルハラスメントの防止規定を追記している。 年12回行っている月初会議前のロールプレイング研修の中にもハラスメントへの対応を取り入れ知識習得から理解を深めて、ひとりひとりを大切にできる企業風土を根付かせ、対人関係でのトラブル未然防止を図っている。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 役員の年1回、人権・ハラスメント講習への参加を努力義務化 令和5年 就業規則の修正など見直しを実施 令和6年 社内教育として年12回のハラスメント防止教育を接客対応に活かしていく。 【目標達成に向けた取組】 ・ハラスメント防止教育、年12回継続 ・ハラスメント研修会や人権研修会への年一回以上の参加を促す ・社内回覧書類等の閲覧環境の整備 |
| 女性の活躍 | <現在 KPI>全従業員に対する女性の割合 42%(令和 4 年5月時点)全管理職に対する女性管理職の割合 42%(令和4年5月時点)※女性の割合が4割を超えている場合は以下も記載(今後に向けた目標も以下指標で設定)【自社における女性管理職の比率】 33%(令和4年5月時点)(管理職:取締役5人、うち女性1人、監査役女性1名)【主な取組】・女性の積極的な人材募集・採用を進めて、男女の就労格差を縮めている。・柔軟な働き方を進めて部分的に時間給を取りやすい仕組みを導入している。 | 【今後の目標・達成時期】 <今後 KPI> 令和4年度末までには全従業員の男性と女性の割合を 50%にする。 令和5年には短期時間で就業できる仕組みを社内規定に盛り込む。 令和6年には女性役員の比率を50%に向上させる。 【目標達成に向けた取組】 ・柔軟な働き方を協議する場の醸成 |
| 多様な働き方の促進 | 【主な取組】 ・時間単位の有給休暇の取得を実施して親の介護や子育て世代の急な困りごとへの対応を従業員が行いやすいよう仕組み化させている。町の出張健康講座を社内で受講した際、体調に気になる事がある際には時間有給を取得して受診してもらえるよう、アナウンスした。 | 【今後の目標・達成時期】 有給休暇の取得率の向上(令和6年には有給休暇 消化率80%以上を目標) 全従業員の有給休暇の取得率は令和3年1月時点 約65%程度の取得 令和4年 70%以上を目標 令和5年 75%以上を目標 令和6年 80%以上を目標 ・1目標達成に向けた取組】 ・子育て社員への子育て教室参加を推奨 ・管理職による定期的なヒアリング実施 |

社会(2/2): 株式会社赤碕オート

| 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
|--------------------|---|--|
| 社会配慮型商品・サービスの提供 | 【主な取組】 地域公共交通社会実証実験へのハードとソフトー体となったサービスの提供(助け合い交通ことうら)トヨタモビリティ財団基金による琴浦町と中央大学の取り組みで地域の団体などとつながり、取り組みに一緒になって参画していくことで活力のある地域社会づくりに貢献している。令和3年 自社中古車を活用した1ヶ月単位で契約可能な「短期リース」を助け合い交通事業に貸し出しすることで公共交通空白地帯の移動に困る免許のない高齢者、学生等に対してドアツードアの移動が可能となるサービスを提供することで生活を支援している。また、ドライバー当事者となって移動を実際に支援した。現在も有償運送許可車両として貸し出し中 | 【今後の目標・達成時期】 お困りごとから課題を解決し、自社サービスとして開発、販売などを通じ地域課題を解決できるサービスを開発する。 令和4年 自動車短期リースを共助交通の研究自治体、海外留学生への貸し出し。 令和5年 災害時などを想定した短期リース貸し出しの仕組み化。 令和6年 短期リース車両のネットワーク化 【目標達成に向けた取組】 ・令和4年短期リースホームページの作成・イベントへの積極参加 |
| 地産地消 | 【主な取組】 自動車販売の展示会イベントのご成約特典や新しいお車の納車式(お客様購入自動車の納車イベント)で地元業者から記念品を購入している。地元のお菓子屋さんのスイーツや地元漁業会から購入した鮮魚、地元のお花屋さんから花束をお客様にお渡ししています。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 地産地消の契約が何件あるのかの調査 令和5年 目標設定 令和6年 定めた目標を達成できるよう実践していく。 【目標達成に向けた取組】 ・地域商店様とコラボレーション企画 |
| 地域社会への貢献 | 【主な取組】 ・地域団体イベントへの協賛を行なっている。(地元商工会青年部など) ・福祉法人イベント等へのボランティア参加 ・地元中学生、高校生の職業体験事業の受け入れ | 【今後の目標・達成時期】 令和4年自動車該当検査への立ち会い 令和5年 ボランティア活動への参加を社内評価制度に加えることを検討 令和6年 社内規定の変更・追加を実施 【目標達成に向けた取組】 ・地域行事に積極的に参加していく ・地域のお困りごとに積極的にかかわる |
| プラスワン【高齢者の社会生活の維持】 | 【主な取組】 スズキセニアカー(電動福祉車両)の販売を行っている。セニアカーの販売を自動車ローンや自動車買い取りの実施などと組み合わせて免許証返納後のお乗り換えをご提案することで運転免許返納後の移動の自由の確保を行い、買い物やお出かけなど高齢者の方の生活の不便を解決している。 | 【今後の目標・達成時期】 移動に困ることのないサービスの提供ができる企業であることを自社ホームページや SNS を活用して高齢者ご家族様にも情報発信していく。地域の朝市などの出店を通じてセニアカーの販売促進を行うことで地域の方に知っていただく。 【目標達成に向けた取組】・地域イベントへの出店で試乗体験会の実施 |

経済(1/2): 株式会社赤碕オート

| T70 公丁石 口 | IB大小型化 | ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ |
|------------------------|---|---|
| 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
| 事業継続計 画(BCP)の 策定 | 【主な取組】 令和3年8月に取り組み・策定済み 未曾有の災害など自動車は社会インフラの重要な 基盤であることを認識しており、災害時の自動車や 保険の代理店として、お客様からの相談、行政から の依頼にいち早く対応することのできる体制を備え ておけるよう取り組んでいる。令和4年は8月に実施 予定。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 考えるための「場」の創出を起点として、令和3年に策定したBCP計画の見直し、修正を考える場をつくる。令和4年8月実施予定令和5年 弊社だけの知識に偏らないよう、連携しながらよりお客様にとって、地域にとって迅速に対応できる体制をあらゆるつながりを大切にしながら整えていく。令和6年 BCPで得た知見を外部企業に情報として伝え、保険販売に活かす。 【目標達成に向けた取組】・BCP計画策定ツールの導入 |
| セキュリティ 対策 | 【主な取組】自社ホームページからお問い合わせをもらう機会が増えており、お客様情報の取り扱いはますます重要性が高まる。そして、生命保険などのセンシティブな情報を取り扱う代理店であることからホームページの https 化実施した。令和3年12月、自社情報やお客様情報の漏洩を防ぐ。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年情報セキュリティの研修などに年間1回以上の参加を努力目標とする 令和5年社内情報共有ツール1件の導入と活用を 進めてセキュリティ機能を強化する。 令和6年効果の検証・改善の為のミーティングを年 12回の会議の中で実施する。 【目標達成に向けた取組】 ・研修会への参加 ・商工会との連携でホームページ等IT専門家派遣事業を依頼(令和4年6月予定) |
| 法令順守の取組の徹底 | 【主な取組】 ・法令遵守のために毎年4月に自主点検を実施して組織体制や設備、方法などを確認している。 ・タイムリーな情報共有を実施して法令遵守・コンプライアンス意識の醸成をはかるために社内全体会議を月2回「月初会議」と「中間会議」で定期的に開催し、法令・コンプライアンスについての情報を共有できるセクションを会議内に設けている。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 継続的な取り組みとして内容を修正と改善 していく。 令和5年 継続的な取り組みとしての評価を実施する 令和6年 違法車両を削減するための取り組みなどを 検討 【目標達成に向けた取組】 ・自主点検の実施 ・労働基準監督署等の相談窓口の活用 |
| 情報公開 | 【主な取組】 ・ホームページや SNS で自社の取り組みを週に1回程度で発信している。 わかりやすい説明を意識して、だれにでも情報にアクセスしやすく、わかりやすい自動車や便利で役立つ生活の情報や安全情報を発信していくことで、知らないことへの不利益をなくしていく。 ・令和 4 年 3 月から災害時、異常気象発生時限定で LINE 友達全員に「ヒトとクルマを守る安全情報」を発信している。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 自社 SDGs への取組をニュースペーパーに て書面やWEBにて発信 令和5年 ヨコナガカーライフに関する自社情報を今 後のSDGs目標と関連づけながら発信していく 令和6年 2030 年までのSDGs目標を実現させるため に取引先様とともに目標を共有していく。 【目標達成に向けた取組】 ・商工会との連携でホームページ等 IT 専門家派遣事業を依頼(令和4年6月予定) ・安全情報の発信 |

経済(2/2): 株式会社赤碕オート

| 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
|-------------------------------|---|--|
| コロナなど の市場変化 を見据えた 対応 | 【主な取組】 ・自動車を必要な時に必要なだけ使えるレンタカー事業を行なっている。 ・滞在や自動車での旅行など中期間の使用を想定した目的に応じた「短期リース車」を宣伝するための短期リース専用サイトβ版を開設中。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 短期リースのピンポイントのターゲット設定 令和5年 車両供給体制ネットワークの整備 令和6年 サービス供給体制のスピード化 【目標達成に向けた取組】 ・専用ホームページサイトの完成 令和4年10月頃ま でに |
| 自社以外の 経営資源活 用 | 【主な取組】 先進的な整備技術の習得のために整備振興会の研修会、スズキ研修会、保険の代理店組織主催の技術勉強会に参加して積極的な装備のある自動車の整備情報等の意見交換をしており、電動車に装備される先進安全装備などこれまでにない新しい仕組みに関する整備方法や管理方法を積極的に学びながら安全で確実なメンテナンス技術を目指している。 | 【今後の目標・達成時期】 販売、整備、保険対応などの情報交換をして共に新たな装備課題を共有して、解決方法を見出す為の取り組みを進めている。 令和4年 相互連携による勉強会にて意見交換令和5年 45 周年事業実施。取引先との連携令和6年 技術課題解決を目的として連携企業を1社つくる 【目標達成に向けた取組】 ・研修会や勉強会への積極的な参加を促す |
| デジタル化 による生産 性向上 | 【主な取組】 ・整備・経理システムのクラウド化を令和3年2月より実施している。 ・LINE チャットボットを活用した予約受付システムの構築などを通じて労働生産性の向上への取り組みを行なっている。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 WEB 予約受付システム、入庫管理システムなどの推進、テックタッチ可能割合60%以上 令和5年 お客様とお会いし、お話しをすることのできる時間の数値目標化。 令和6年 予約・見積案内・入庫管理システムのデジタル化 【目標達成に向けた取組】・お客様とのデジタルでのつながりを増やして、より丁寧で詳細な説明を実現する。 |
| 雇用の維持・拡大 | 【主な取組】 ・カーディテール分野を新規市場開拓するために令和2年から自動車のセルフ手洗い洗車場を当社敷地にオープンさせて、専用ホームページの開設を実施しながらセルフメンテナンスのための拠点として洗車を起点としたカーディテール事業を行っている。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 ロードバイクやバイクのセルフメンテナンスや洗車としての機能を追加する。令和5年 会社社屋2階をモビリティスペースとして改装 令和6年 利用者の拡大。洗車を起点とした自社サービスの利用から売上の増加を目指し、カーディテール事業としてボディコーティング、リメイク専門のスタッフとして新規雇用1名を目指す。 【目標達成に向けた取組】 ・うみなりロード沿線上のロードバイクセルフメンテナンス拠点としても展開・専用ホームページの立ち上げ・改装リフォーム作業 |
| 人材育成·能 力開発 | 【主な取組】 ・自動車の整備技術のさらなる向上に向けて、整備 士資格保有者はお客様にわかりやすい説明をする 必要があり、自動車整備技術スーパーアドバイザー 資格の取得を目指している。 ・自動車交通事故時のEDR装置(運転記録)の取り 出しができる認定資格の取得を目指している。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 資格取得の目標設定 令和5年 資格取得数、研修参加数による査定評価 令和6年 目標資格取得、給与昇給。 【目標達成に向けた取組】 ・従業員のキャリア形成のためのヒアリングの実施と具 体的なプランの作成 |

環境(1/3): 株式会社赤碕オート

| | 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
|----|----------------------------|---|---|
| 気候 | 変動リスク/環境 | 竟負荷リスク・機会の分析・対策 | |
| | 自然環境の変化が経営にも たらす影響 | 【リスク・機会の分析】 自然災害の増加によるレスキュートラブルの増加。自然災害発生時などの際は多発的にお客様から自動車保険を通じた救援要請が入ることから、通常の業務に支障が出る可能性が極めて高くなる。 【分析に基づく主な取組】 令和4年 災害時連携を図るための災害時伝言ダイヤルなどの仕組みを活用した取引先との連絡方法などを協議。 | 【今後の目標・達成時期】 関係取引先との災害時の円滑な救援体制の構築 に向けた話し合いを行う。 令和5年 同業者間でも災害時の救援体制につい で何ができるか、検討機会の設置 令和6年 広域的な災害時支援ネットワークへの加 盟を検討する。 【目標達成に向けた取組】 ・防災訓練の実施 ・他社連携 |
| | 社会・制度の 変化が経営に もたらす影響 | 【リスク・機会の分析】 ・脱炭素税化の流れの中で自動車制度の変化が想定されはじめており、販売に占める電動車割合は現在増加傾向にある。それに伴って電動車販売と管理車両が増えているので電動車の整備・点検に伴う新たな整備工具やツールの追加購入のための選定を進めている。・販売後のアフターメンテナンスを実施するとともに電動車整備で本当に必要なツールや整備工具を吟味する作業が必要となる。・いち早く求められるニーズと今後本当に必要なツールが何かを実際の現場を通じて理解することが必要。 【分析に基づく主な取組】 令和4年2月にエーミングターゲットを購入し分解整備後の自動ブレーキの調整ができる設備を導入。 | 【今後の目標・達成時期】 ・環境にやさしい電気自動車、プラグインハイブリッドカー、ハイブリッドカーなどの販売台数を確保する。 ・3 年後には自動車整備技術コンサルタント、自動車整備技術スーパーアドバイザーなどの認定資格取得を目指す。 【目標達成に向けた取組】 ・自動車整備に関する知識や技術の習得・必要な知識の習得と社外ネットワークの活用 |
| | 自社の事業活 動が引き起こ す影響 | 【リスク・機会の分析】 店舗・工場での業務は電気使用、紙などの書面の発行を前提としている状況。作業はそもそも電気がないと成り立たず、従来の紙媒体による書面発行が当たり前となっている。今後、この状況を続けることは電気代も値上がりしており、コストアップとなるだけでなく環境負荷となる。エネルギーのオフグリッド化を目指して自社のエネルギー自給率を上げ、紙媒体から書面を電子化して環境負荷軽減を行うことに意義がある。 【分析に基づく主な取組】 ・太陽光パネルによる発電システムの導入・電子帳票などの活用 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年度 節電に努めて帳票電子化対応 令和5年度 太陽光パネルによる発電システムの 導入 令和6年度 電子帳票完全対応可能店舗として書 面発行を見直して電子帳票発行の割合30%以上 を目標。 【目標達成に向けた取組】 ・情報の見える化による節電意識の醸成 ・電子帳票の作成研修の実施 ・太陽光パネルによる発電システムの導入 |

環境(2/3): 株式会社赤碕オート

| | 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
|----|---------------------------|---|---|
| カー | ボンニュートラル | , | |
| | <省エネ> 燃料消費量の 削減 | | 【今後の目標・達成時期】 <kpi> R4年度、社員全員のエコドライブの実践と工夫による検証、データ化 R5年度、令和4年度のガソリン使用量から5%の削減 R6年度、令和5年度のガソリン使用量から10%の削減 【目標達成に向けた取組】 ・今後3年間でお客様用代車などを可能なものはエコカーを選択して10%削減 ・エネルギーコストの低い自動車への代替え(基盤の更新) ・適切なカーライフメンテナンスの実施による高品質維持による長寿命化 ・CO2排出量算出・可視化クラウドサービス「zeroboard」の活用</kpi> |
| | <省エネ> 電力消費量の 削減 | ・今和3年度購入電力消費年間15169(kwh)総CO2排出量は7tCO2(ゼロボードによる調査)・営業時間外は電力使用を抑えるためにコーヒーポットなどのコンセントを抜くなど待機電力の消費をなるべく行わないようにしている。 【主な取組】・SDGsパイロット事業での支援を活用して太陽光発電システムの導入シミュレーションにて検討を進めている令和4年3月LED証明の部分購入を令和3年8月頃に実施済み・残業時間の削減を進めている。 | 【今後の目標・達成時期】 <kpi> 令和4年度 太陽光発電システムの導入でCO2 排出量 3t-CO2/年(令和5年時点)環境への貢献、年間電力使用量令和3年度比-30%以上の省エネ化(太陽光発電システム導入で年間購入電力量9000kwh以下が実現されることを想定)を目標令和5年度 蓄電システム、EV給電システムの設置検討令和6年度 社屋は全数LED電球への取替完了 【目標達成に向けた取組】 ・LED 照明への切り替え(R4年度50%代替済)・営業時間外の電力消費削減への取組・待機電力のカットへの取組・冷房・暖房の温度±1度調整への取組</kpi> |
| | <創エネ> 再生可能エネ ルギーの導入 | <kpi> 全史用電力における現在の再生エネルギー 使用化率は0。 8. 16kWの太陽光パネル設置で年間想定発 電量8353kwhを実現し電気料金約-16万円 ほどの削減を実現できる省エネ化を計画中 ※全使用電力に対する割合でも可 【主な取組】 太陽光発電システム(パネル規模 8.16kW)を 社屋の屋根に設置し、年間使用電力の使用 割合を自然エネルギー由来に変更。二酸化炭 素削減量を令和3年比較で3t-CO2削減して いくことをパイロット事業者の支援制度を活用 して調査。現在導入を前向きに検討中。</kpi> | 【今後の目標・達成時期】 <kpi> 再エネ発電量 8,353kWh/年(令和5年2月時点) ※全使用電力に対する割合でも可 【目標達成に向けた取組】 【令和4年度】仕様調査、見積、契約、工事の実施 【令和5年度】再生エネルギーの導入、効果測定 【令和6年度】太陽光由来のEV給電設備の導入</kpi> |

環境(3/3): 株式会社赤碕オート

| 取組項目 | 現在の取組 | 今後の目標・目標達成に向けた取組 |
|-------------------------|--|--|
| 廃棄物の削減 | <kpi>・メンテナンス不良による廃車を 0(t)・メンテナンス不良による廃車を 0(t)・メンテナンスパック付保率全体契約の 50% 【主な取組】・自動車の再利用(中古車販売)を目指し、廃車を 1 台でも削減する取組を実施している。特に廃車となる理由の中でも適切なメンテナンスを実施しなかったことによる故障で高額修理となって廃棄車となるケースをゼロにするためにエンジンオイル交換の定期的な交換の実施などを推奨し呼びかけている。</kpi> | 【今後の目標・達成時期】 <kpi> メンテナンス不良による廃棄物発生量 0(t)/年(令和6年時点) 【R4年度】適切なメンテナンスが出来ておらず廃車になってしまった台数の確認 【R5年度】前年台数から70%削減 【R6年度】前年台数から0台に 【目標達成に向けた取組】 ・カーライフサイクルの横長化(長寿命化)を進める。 燃費改善部品・用品による環境負荷改善、定期点検をパックにした商品メンテナンスパックの販売を年間販売数50%以上となるような取組を実施する。</kpi> |
| 環境配慮型商 品・サービス の提供 | 【主な取組】コンパクトな自動車の販売・・・軽自動車を中心に新車中古車販売を行なっている。 低燃費な自動車の販売・・・CO2 排出量の少ない 低公害車や電動車を販売している。 低燃費性能に優れたタイヤの販売・・・エコタイヤ を販売している。 LED バルブなどの長寿命で省エネルギーとなる用 品の販売をしている。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 代替時のエコカーや電動車へのご提案率 を100%にする取組。 令和5年 環境配慮商品のパッケージ化(サビを予防 する車体防錆施工、マフラー防錆施工、ボディコーティング等) 令和6年 点検をパックにした商品メンテナンスパック とパッケージ商品の一体化により横長カーライフを浸 透させる。 【目標達成に向けた取組】 ・電動車の販売に社会貢献型インセンティブの付与 |
| 環境面での社 会貢献 | 【主な取組】 保険証書のWEB 化を推進している。保険会社が 取り組む証券の紙削減のための取り組みである WEB 約款やWEB 証券1件につき1本の植林であ ることを周知して、省資源化と脱炭素化に取り組ん でいる。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 WEB 証券化率の向上のための取り組みを実施 令和5年 WEB 化率50%以上 令和6年 WEB 化率70%以上 【目標達成に向けた取組】 ホームページなどによる情報公開の実施 |
| プラスワン 【エコドライブ】 | 【主な取組】 エコドライブはエネルギーの省力化を促すだけでなく、安全運転にも貢献できる。というメッセージを発信するために地元学生とキャラクターを制作、自動車の納車をする時に冊子を作ってエコドライブを説明ながらお客様にも協力していただく取り組みを地元学生と行った。 | 【今後の目標・達成時期】 令和4年 エコドライブに協力してくださるネットワーク を広げる 令和5年 ネットワークのブランド化 令和6年 エコドライブネットワークでのビジネスマッチ ング 【目標達成に向けた取組】 ・地元学生職場体験の受け入れ(中学・高校) ・エコドライブステッカーの作成 |